



資源の有効活用。もったいないを価値あるものへ

食品残さをバイオガス発電に活用し、 CO2 排出量を年間約 980トン削減

五霞工場・中河原工場・泉佐野工場・神戸工場・ケイパックで実現

キューピー株式会社

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）では、製造過程で発生する食品残さをバイオガス発電に活用し、2022年度（2021年12月～2022年11月）は、CO2排出量を約980トン削減しました。多品種のマヨネーズを製造する中で、異なる商品の製造への切り替え時に、配管から排出されるマヨネーズなどを、バイオガス発電に活用することで実現しました。

バイオガス発電は、養豚農家から出る家畜の排泄物と食品残さを混合してメタン発酵後、そこで生成されたバイオガスを利用して発電する仕組みです。

現在この取り組みは、キューピーの五霞工場（茨城県）、中河原工場（東京都）、泉佐野工場（大阪府）、神戸工場（兵庫県）、グループ会社の株式会社ケイパック（茨城県）で行っています。

キューピーグループは、これからも、食品ロスの発生を抑制する努力を続けるとともに、未来につながる資源の有効活用や循環を考え、環境へのマイナス要素をプラスに変えていく努力を続けていきます。

キューピーグループ サステナビリティサイト「食品ロスの削減・有効活用」

<https://www.kewpie.com/sustainability/eco/resources/>

本取り組みの詳細ストーリー

資源の有効活用。もったいないを価値あるものへ

～食品残さからバイオガスを生成、CO2 排出量を年間約 980トン削減～
マヨネーズで発電。資源の有効活用に取り組んだ一人の社員のストーリー

<https://prtnews.jp/story/detail/ArYzLmcvvNb>